

人文会ニュース

1996. 7

〈人文書講座 35〉

霊学としての物語 山本ひろ子 1

会員社下半期トピックス 13

96年度委員会活動について 27

販売企画委員会

調査研修委員会

図書館委員会

弘報委員会

日本の神

全3巻 (完結)

山折哲雄 編

- 1 神の始原 やちよす 八百万の神々の性格 役割などを多方面から探る。 ●3400円(税込)
- 2 神の変容 民間信仰・国家神など、日本人にとって神とは何か。 ●3400円(税込)
- 3 神の顕現 姿なき神はどのように祀られてきたか。豊富な図版で解明。 ●3600円(税込)

平凡社 〒152 東京都目黒区碑文谷5-16-19 ☎03-5721-1234 振替00180-0-29639

幸福の擁護

認識問題

4 近代の哲学と科学における

今江祥智 子供の本はいま——長田弘の詩やパンサンの絵本、河合準雄、石井曉美、そして希望の文学を語る評論集。三六〇円
カッシーラー 西欧五〇〇年の知の意味と場を辿る碩学の大家を公刊。本巻は19、20世紀を扱う。山本義隆他訳。三〇〇円

姉妹の選択

シヨウオルター 「若草物語」からA・W・ウーカ―まで、アメリカ女性文学の伝統と変化を語る。佐藤宏子訳。三三〇円

創業から半世紀、それを記念して、二六〇点近い刊行書の全データと、それに対する書評抄から成る「みすず書房の50年・刊行書総目録」(SGK)を編みました。お申込は小社まで。

東京文京本郷 3丁目17-15

みすず書房

ミネルヴァ書房

生命と宇宙

「Minerva」 21世紀ライブラリー ②4

—21世紀のパラダイム—
小林道憲著 生成流転する世界への洞察を通して、自然を「生きた自然」として捉え、躍動する生命と宇宙を開示し、宇宙生命の永遠を説く。三六〇五円

現代哲学の潮流

近刊

哲学と生活世界の展開——
里見軍之／谷口文章編著 古代から近代に至る西洋哲学と現代哲学の概要を辿り、時代の知のありよう、現代のリアルな問題を考察する。二八八四円

〒607 京都市山科区日ノ岡堤谷町1番地
TEL 075-581-0296 振替01020-0-8076

法政大学出版局

(表示価格は税込)

南島貝文化の研究

木下尚子

弥生時代以来の貝交易ルートを辿り、貝をめぐる習俗を復元して日本古代文化の系統をさぐる貝の道の考古学。一万四千六二六円

占領期メディア分析

山本武利

占領期におけるGHQの政策と生き残りを図る日本のメディアの関係図とその動態を膨大な一次資料から解読する。九九九一円

政治的風景

美術史

こどもの歴史

ヴァルンケ 風景と風景画 ハリスン 中世から十九世紀までのこどもの生活史を描き解く。福本訳／二二六六円

162 東京都新宿区市谷田町2 ☎03-5228-6271

霊学としての物語

◆霊学としての物語へ

従来の宗教学や信仰史の枠組みは、おおむねその有効性を失なってしまったのではないか。そこでたとえば、宗教ではなく、霊性の消長の歴史という新しいパースペクティヴを与えてみるとする。霊性の覚醒と消長の過程。視えざる世界との交渉、そのメカニズムについて。煩瑣な教理とみえても、それらは必ずプラクティスを伴っており、異界にすまう神霊たちとの交渉、テクネーこそが勘所なのだと気づいて以来、中世の宗教者たちは

フェリス女学院大学講師

山本ひろ子

私に対し、ちらほら『霊覚者』という姿を現すようになった。いやおうなしに、『テクスト』の向こうへと押し出されていく体験ともいえるかもしれない。

昨年暮から今年にかけて、藤井貞和が『日本（小説）原始』と『源氏物語入門』を出した。物語論の旗手として四半世紀走り続けてきた藤井の、卓抜なる仕事の内実と軌跡が一望できる本とは、誰しもが与える評価だろう。その中には昔読んだ宇治十帖論などもあり、私はつかのま郷愁にさそわれたが、その後の論のゆくたてに深く感じるところがあった。二十世紀末の現在において、

物語と靈性、あるいは靈学としての物語という地図に組み換えられ、未来に投げ出されねばならないと。

かかる夢想の庭に私をいざなった張本人「物語は、ほかにもうひとつあった。こちらは文字で書かれたのではない映像の物語、デヴィット・リンチ（とその一党）制作のテレビドラマ『ツイン・ピークス』である。

『ツイン・ピークス』は一九九〇年前半にアメリカでブームの頂点を迎え、まもなく日本に上陸した。以前からリンチのファンだった私は、（自慢できる話ではないが）ビデオが出るとすぐさま借りてはダビングし、次々に揃えていった。全十三巻（このほかワーナーのパイロット版と、後に作られた映画『ローラ・パーマー最後の七日間』がある）。読書嫌いの私が、本当に久しぶりに耽溺した長編物語だった、ということにあらためて思い至る。

文字によるうと非・文字であろうと、『物語』であるならば、『ツイン・ピークス』と『源氏物語』『宇治十帖』がその構造においていくつもの類同性を示していたのは（源氏の研究者たちからは大いにひんしゅくを買いそうだが）、驚くには当たるまい。たとえば水と死体の原景をめぐって。

◆象徴物としての死体

宇治十帖、いな『源氏物語』全篇のなかで、私をもっとも魅了したのは「手習」の巻である。宇治十帖の物語が急旋回するところ、物語は終焉に向かって病理的ともいうべき痙攣を見せていく。比叡山・横川の僧都が所用で宇治の院を訪ねた。人の住んでいない院は荒れて、おそろしげな所であった。灯をともして建物の裏にまわると、木の根元に「白き物のひろごりたる」のが見えた。

「鬼か、神か、狐か、木精か。名乗り給へ」と迫ってみれば若い美しい女。宇治十帖にして『源氏物語』最後のヒロイン、宇治川に入水したはずの浮舟であった……。

一方『ツイン・ピークス』は、川岸に打ち寄せられた白い物体が発見される場面から物語が始まる。それはビニールに包まれ、白い紐でぐるぐる巻にされた若い娘の死体であった。少女の名はローラ・パーマー。『ツイン・ピークス』の全体をつらぬく女主人公である。

しとど水を含んだ異物——死体がそれぞれの物語の運命を決定づけているのだった。さもあらん、宇治十帖はその始まりから、轟々と不穏な川音を響かせていた。『ツ

イン・ピークス』のタイトル・バックにも、アンジェロ・パダラメンティの甘美にして不吉な調べにのって滔々たる川の流れが映しだされる。これらは単なる舞台装置ではない。

◆宇治の川霧―『源氏物語』宇治十帖

「宇治十帖」(橋姫・椎本・総角・早蕨・宿木・東屋・浮舟・蜻蛉・手習・夢浮橋)は、光源氏の息子・薫と今上帝の皇子・勾宮という当代きっての貴公子と、宇治の姫君たちの綾なす物語である――すくなくとも表層は。

「入りもてゆくままに霧りふたがりて、道もみえぬしげき野なかを分けたまふに、いと荒ましき風のきほひ

に、ほろほろと落ちみだるる木の葉の露の散りかゝるも、いと冷ややかに人やりならずいたく濡れたまひぬ」(橋姫)。「宇治十帖の冒頭は森と霧との騎士物語のごとくだ」と若い日の藤井は書いている(「宇治十帖論」王権・救済・沈黙)『源氏物語入門』所収)。

薫は実は、源氏の正妻・女三宮が青年柏木と通じて出来た不義の子であった。出生にまつわる秘密に己れの運命を感じせざるをえない薫は、宇治に住む落魄した老皇子・八の宮と心を通わす。二人の姫君(大い君と中の君)をいつくしみつつ、俗聖のような生活を送っていた八の宮は、薫に二人の後見をそれとなく頼み、まもなく病死する。やがて大い君に惹かれていく薫。しかし大い君は、

【ドレ画】
ヴィクトリア朝時代の
ロンドン

小池滋編著▶ドレの挿絵による「ロンドン巡礼」◀3500円

【ドレ画】
聖書物語

山室静▶ドレの「聖書画集」による名場面と聖書物語◀2600円

シェイクスピア
ギャラリー

ボイデル編 小田島雄志著▶画家20余名の挿絵集◀3000円

【カラー版】
幼のケルト人

ヨーロッパ先住民族の神秘と謎

柳宗玄 遠藤紀勝著▶ケルト文化の真髄とその謎◀5800円

歴史の研究■全3冊

トインビー/長谷川訳 各2400円

素朴な反逆者たち

●思想の社会史
ポズボーム著 4500円

新世代の国家像

●明治における欧化と国粋
K・B・バイル著 3090円

世紀末恐慌と世界経済

●リストラクチャリング・プロセス
J・コロコ著 2900円

ナチスに権利を
剝奪された人びと

●ヒトラー政権下の日常生活
フロッケ&ライマー著 3000円

孫文選集■全3冊

●主要著作収録の決定版
山口一郎他監修 揃価1万2380円

社会思想社

東京都文京区本郷3-25-13
振替00160-2-71812 ☎3813-8101

薫を敬愛しながらも彼の思いを拒み続ける。そして匂宮と結婚した妹・中の君が幸福ではないことに心を痛め、煩悶のうちに病死してしまう。

大い君を失って悲嘆に暮れ、中の君に亡き大い君の面影を求めて慕いよる薫。そんな薫に中の君は、異腹の妹で姉・大い君とそっくりの娘（浮舟）がいると告げる。まもなく浮舟を見出した薫は、大い君の身代わりとして愛すべくと宇治に住まわせた。しかし見目よい女を見逃さない色好み・匂宮は、強引に浮舟に迫り関係を結んでしまう。誠実な薫への背信に苦しみながらも、匂宮へと傾斜していく自分の情念を呪う浮舟であった。轟々となり響く宇治川の音。「すべていたづらになる人多かりける水」というではないか。進退窮まり、ついに「わが身を失ひてばや」と浮舟は決意する。

薫を愛しながらも大い君が結婚を拒否した理由を、藤井は「物語の至上命令」であり、「結婚後の不幸を見たくない、という心理に発するもの」とした。また浮舟の入水行を「愛執の罪を清算するため」と読んでいる。

「彼岸と此岸とのあいだにただよっていた浮舟が、自殺行により、文字どおり決死の彼岸志向をこころみたと

き、対比的に薫の救済されざる此岸的な運命があざやかにそこに示されたものとみる」というのが、藤井『宇治十帖』論の着地点であった。

王権から救済への物語の展開。宗教的要素を直感しつつも多分に心理的であり、中世小説への回路が探られる。浮舟の信仰心は外側から説明されるにすぎない。そのままで自閉したら、宇治十帖が靈魂表出の物語であることは知られないままだったろう。しかしほぼ十年後、「憑入の文学」という視座を得ることで、物語は初めて靈的な本性を開示することになる。

◆憑入の文学へ

大い君は未婚のまま死に、この世に執着を残した。彼女の成仏しえぬ魂は、自らの「形代」として浮舟の肉身を求めた。「大い君の靈魂が浮舟の物語を必要としている」、「物語は主人公の靈魂の処理のためにつづきが要求されてゆくかぎり、長篇にならざるをえない」（憑入の文学『源氏物語入門』）。かかる藤井の発言は、凡百の源氏物語論のほとんどを無効にした、と私は思う。それはよりグロウヴァルには、物語の「外部」に神々の世界を、

物語の起源に神話を凝視する営みのうちにある。かくして「物語は、物語の外部の、靈的な世界と交信しはじめる」(「神話としての源氏物語」『日本小説』原始)。

靈性への扉を開かせた鍵は、藤井のなかの《南島》であつたろう。当時、《南島》(文学)は、清新かつ暴力的な嵐となつて「本土」に上陸し、吹き荒れていた。《日本》文学は根底から揺らぎ、全面的な見直しを余儀なくされたのである。膨大な呪詞、呪謡の類を採集した『南島歌謡大成』(全五巻)の刊行は、『おもしろそうし』しか知らない私たちにとって、まさにひとつの事件だった。《神話》ではなく《神語り》、書承ではなく口承こそが文学の源泉であることを、圧倒的な量感をもって突きつけてきたのである。そして山下欣一の報告・研究により、神話の起源の問題はアクチュアルな成巫の現場へとつがえられた。巫病の発生——巫病の本復というユタの成巫過程の様態もさることながら、ユタが語る長大な呪詞「おもいまつがね」に出会った時の驚きは、今でも記憶にあざやかだ。

かくして藤井は文学の垂心を《南島》のシャーマニズムのただ中に降ろして、いささかもひるまない。宇治十

帖論にあつては、かの浮舟は靈魂の系譜に位置づけられ、浮舟の自殺行——出家のプロセスはただの求道ではなく、「成巫」の過程そのものとなる。

こと対象は浮舟に限るものではない。文字の背後に隠れていた靈たちがにわかに活動を始め、時に物語は交霊の庭と化す。そもそも『源氏物語』は、『平家物語』と同様に、「死霊の世界を絶対の根拠にして成り立ってきた」(叙事詩と『源氏物語』『源氏物語入門』)のだから。

古い別荘で夕顔がものけにとり殺される場面や、六条御息所の生霊・死霊の出現などはつとに知られていよう。しかし物語の表層にはあらわれていない靈の発動を感知できるかどうかが肝要なのだ。なぜなら「死霊は、かつて、あるいは現在、だれかの守護霊であるから、かれあるいは彼女以外の敵対者にたいして怨霊となつてとりつく」(憑入の文学)わけで、「守護霊の機能がはたらいているときには、特に物語のなかに出現しなくても」よいからだ。

たとえば「玉鬘十帖」の「篝火」の巻。庭にあかあかと篝火が焚かれており、源氏が玉鬘(夕顔の娘)と添いふしている場面である。「篝火という祭具が、おぼえずこ

こにつくりだしてきた靈的ふんいき」(神話としての源氏物語)と、心穏やかならぬ二人が詠んだ贈答歌に、藤井は夕顔の靈の訪おもいを嗅ぎつけている。物語論が論を超えて異界に触れる瞬間、藤井による文学的招霊というべきだろうか。

◆映像物語『ツイン・ピークス』

「物語のなかを生きてうごめく登場人物たちを死者の世界が大きくかこんでいる」(叙事詩と『源氏物語』)。それは『ツイン・ピークス』もしかり。

カナダ国境に近い、木材の伐採を主産業とする架空の田舎町ツイン・ピークスが物語の舞台である。二月のある朝、霧のたちこめる川岸の巨岩のそばにビニールに包まれた死体が打ち寄せられていた。殺されたのは、町の人気者・高校生のローラ・パーマーであった。

翌日町に、この事件を調査すべくFBI特別捜査官デイル・クーパーがやってくる。まれびと・クーパーは奇妙な独自の捜査方法で、事件の真相とその背後世界に挑んでいった。それは心と体を相関させ、観察と直感を併わせて機能させるテクニクで、彼はそれを夢によって

悟ったという。そして事件が八方塞がりの様相を呈するとき、異界からの死者が夢に現れクーパーに啓示をもたらす。もちろん覚知できなければ、それらはただの象徴にすぎない……。

さてヒロイン・ローラは自分の死を予期しつつも、無残な仕方で殺された。真相が解明されない限り、この世に執着を残しているのは当然だろう。やがて――髪の色を除いては――ローラにうりふたつの従姉妹マデリンがやってきて人々を驚かせる。彼女は明らかにローラの身代わり性である。ローラと相思相愛だった同級生の青年は、ローラの死後にローラの親友と恋人関係になるが、果たせるかな、従姉妹の出現後は、ふたたびローラ(その形代のマデリン)に惹かれていく……。

『ツイン・ピークス』は死者、すなわちローラがどこまでも主人公であり続ける物語である。彼女は夢や幻覚や身代わりなどを通して、この世に爪をたて続ける。死者ローラばかりではない。ツイン・ピークスという物語の世界を、ざわめきのように死者や神靈たちがとり囲んでいる。その霊たちも一様ではない。

それを感じしうる人々がなかだちとなって、彼らはこ

はじめに 言葉あり

110人の断章

●笠原芳光 第二の宗教改革のいま、キリスト者110人の言葉から新しい生き方を探る事典風の人生読本。

〈序〉=加藤周一 1957円

呪われた詩人 尾崎放哉

●見目誠 フランス象徴派の系譜でとらえ、句の仏語訳をも試みた異色の評伝。

〈序〉=宮沢章夫 2575円

美しく老いる

●井伊文子 療病の若き日を回顧し安らかに老いを受容。折々の季節をみずみずしい感覚で綴る。 1957円

喜びはいじめ を超える

ホリスティックとアドラーの合流

●高尾利数他 いま現場で緊急・持続的・根本的にどう対処するか。これまでにない総合的提案。 2266円

ボディワイズ

からだの叡知をとりもどす

●J.ヘラー／古池・杉沢 緊張よ、さようなら。からだの叡知をとりもどすためのボディワーク。 2987円

▶ 定価は消費税込み

春秋社

101東京千代田区外神田2-18-6
☎3255-9611 振替00180-6-24861

こちら側にメッセージを送ったり、時には大胆に介入してくる。たとえば、いつも丸太を抱いている人嫌いのログ・レディ（丸太伯母さん）。秘密の知恵を宿す丸太は、ローラ事件の核心を見ていると彼女は言うが、丸太に尋ねるテクネーを持ち合わせない初期のクーパーはそれを聞き出すことができなかった。またインディアンの家系に生まれたホーク警部補や、しばしば幻覚を見、予知能力をもつローラの母・サラ、従姉妹のマデリン。そして誰よりもクーパー捜査官。

ところで物語は早くに、霊能のある二人の人物＝サラとクーパーに《犯人》ボブの顔を目撃させている。異常な心身状態となったサラはローラの部屋で犯人を幻視

し、クーパーは夢の中でその男を認知するという形で。（ただし二人が見たボブとは、悪霊の象徴、共同表象であり、実在する人間ではない）。

ローラ殺しを主軸に複雑な人間関係が絡んで、もつれにもつれた物語も、ようやく一応の終結を迎えることになる。事件を解決に導いたのは、初期の段階でクーパーが見た、默示的な夢であった。その夢が解けたとき、ローラを殺した人物、つまりボブに憑依された殺人者が誰かが判明したのだ。最後に血と涙にまみれながら死にゆく犯人（憑霊者）を抱きかかえて、クーパーは祈りの言葉を囁く。「光のなかへ、光のなかへ……」。

あっと、思った。聖書ではない。チベットの《死者の

書『バルド・トエドル』の言葉なのだ。その最初、「死の瞬間のバルド(中有)」は根元のクリアー・ライトへの導きで、死にゆく者の耳元で何度も繰り返して読むようにと定められている。こうして解脱への光に満たされたかのごとき一方で、その身体から脱け出た悪霊は次の餌食を求めて夜の空を羽ばたいていく(以上、第一シーズン)。

◆悪霊と脱魂

ためらわず言ってしまう。私にとって、第一シーズンのローラ殺しが《悪霊》をテーマとするなら、第二シーズンの物語は《脱魂》がテーマである。もとクーパーの先輩捜査官で異常心理に取り付かれたウィンダム・アールとクーパーとの対決がストーリーだが、それは表向きにすぎない。最後にクーパーは魔境というべき「ブラック・ロッジ」へ乗り込む。今度は夢による脱魂ではなく、文字通りの霊界巡歴である。しかし敵は十二分にしたたかであり、巧智であった。ボブや死んだローラをも動員しつつ、悪霊はクーパーをラビントスへと引き込み、心身を引き裂く。

クーパーは悪霊統御に失敗したのだと、私は思う。その魂は向こう側に取り込まれて(すぐれた司霊者によるテクネーが実現しなければ)、おそらく永遠にもどってはいない。『ツイン・ピークス』はそこで終わる――。

『エクソシスト』がキリスト教文化における悪魔払いであったのに対し、『ツイン・ピークス』は非キリスト教的、シャーマニズム的である。全米におけるフィーバー振りは日本人の常識を遥かに越えるものだったようだ。物語『ツイン・ピークス』の生成過程に享受者は介入するのをためらわない。物語に見え隠れする主題と構造、寓意・パロディをめぐって膨大な引用のグラフィティが作られたことだろう。多数の登場人物たち一人一人のモデル捜し(なんと源氏物語研究に似ていることか)はもちろんのこと、たとえば放映中のABC局以外の局では、夜のニュースでローラ事件の捜査の進展を「報道」したと聞く。九〇年前半においてローラ・パーマーはもっとも著明なアメリカ人となった。

もしかしたら『ツイン・ピークス』は、非・文字による二十世紀最後の長編物語になるかもしれない、などとうそぶく私である。

「学校社会や研究の動向が、文字ばかりを確実なものとみなして、そのそとがわにあるものを推論するばかりであったり、さらに不可知なものとしておしやっていることをつづけていると、いつか、われわれの心のなかの無文字へのあこがれが、反乱を起こし始めるかもしれないではありませんか。若者たちの文字ばなれやオーディオ化の傾向は、もしかしたらそのあらわれであると考えられなくありません」(『叙事詩と『源氏物語』』)。

◆浄土神楽——死霊のイニシエーション

「死者のほうが、三十三年なり、五十年なり、死にきれず、生者に供養をもとめている」(『神話としての源氏物語』)。夕顔も大い君もその一人であった。また大い君のように結婚しないで死んだ者を供養する方法として、藤井は折にふれ冥婚習俗をあげている。

けれども日本文化が壮大なスケール、繊細なハンドリングを織り混ぜた死者供養の装置をもっていた事実を矜恃をもって想起すべきだろう。それは「浄土神楽」(霊祭神楽などとも)である。死者供養を神楽がになっていたのだ。

浄土神楽のもっともラディカルな形態は中国地方の荒神神楽で、三十三年に一度行われた。死者の霊は三十三年経つと浄化されて『祖霊』へと加入する。しかしこの加入は、柳田國男がイメージするような自然過程としてあったとは考えられない。もし霊たちがこの世の人間たちに対しおしなべて従順であったなら、浄土神楽はかくも大掛かりに実修されるはずはなかったろう。また霊魂の物語が作られ、語られる必要もなかった。

若くして死んだ者、横死した者。いまだ鎮魂されずに中有にあつてさまよい、この世を窺う霊たち。そうした死霊を神楽の夜、この世へと呼び出し、浄化・慰撫して成仏させるのが浄土神楽で、執行者は「法者」(ほっしゃ、ほさ)と呼ばれる司霊者と「神子」であつた。中国地方では、神懸からせる「法者」と神懸かる「神子」がペアを組んで神楽や病人祈禱を行っていたのである(岩田勝『神楽源流考』)。

弾圧の憂き目に会い、法者も神子も浄土神楽も亡滅したが、長大な祭文「六道十三仏の勸文」が残った。おそるべき死霊鎮めの祭文である。

それ日本の習いには、

釈迦の子神子の召され初めしを、

神子・法者受け取り、

般若梓を伏せ、

六道三夜の道を明け、

十三仏の門を開き、

諸経文の功力によって、

神子・法者に乗り移り、

冥土の物語、涙の見参と申すなり。

釈尊の流れを汲んだ神子・法者が梓弓にのせて「六道三夜の道」開くと、死霊は神子に懸かって「冥土の物語」を語るといふ。そのためには六道にさまよう死霊をこの世へと呼び戻さなければならない。それは法者にしかできない高度な霊的テクネーであったし、「六道語り」の存在理由でもあった。

今死霊は、三十三年忌の奥にまで迷い込んでいる。法者は梓弓をかき鳴らし祭文を誦みながら、おのれの靈魂を身体から遊離させ、冥界Ⅱ六道の辻へと送りこむ。脱魂による冥界飛行とみてよい。

そして「頼りましませ、御霊たち」と強く呼びかけながら、三十三年忌から二十五年忌、十三年忌、……初七日と忌日を逆に辿ってこの世に連れ戻すのである。忌日ごとに法者は、そこを支配する冥界の王と本地仏の名を呼びあげて称え、死霊の罪を懺悔し、経文を唱えて教化する。そして次のステップ（この世への次なる階梯）へとはやし、せきたてる。「急げ、霊よ」。

法者はまさに司霊者、さまよう霊たちのガイドイング・スピリッツなのだ。こうして三十三年忌から、初七日まで時間を逆行しつつ、ついにこの世Ⅱ神楽の座に辿り着く。すると死霊は神子に憑依して、語り出す……。

いにしえの我が故郷に来てみれば、
変わらんものは石と火の色。

簀笠をば臼の上に脱ぎ置きて、
半挿盤に足ふりすすぎて、

梓の前に参るが、

（中略）

めのとの脇を通り、
位牌靈供に移り、

弓の聴聞召され給ふ。

「故郷に帰った私の目に映る五輪塔と、燃えさかる紫燈の火は昔のままで。死出の旅装束の蓑笠を脱ぎ、盥で足をすすいで、私は今ここに帰ってきた。梓弓の調べに誘われ、神子・法者の脇を通り、ほら、私の霊の御座位牌へと帰って、法者の語る弓の聴聞に耳を傾けているのであるよ……。」

荒神神楽はなぜかくも長大な語りを必要としたのか。それは死者の靈魂を導き、教化し、鎮魂するテクネーのプロセスが必要とした時間に見合うものであったからにちがいない。

浄土神楽の目的・本質は、死霊のイニシエーションにあると私は確信する。神楽の世界を根柢のところで規制し、掌握しているのは、視えない霊的秩序であった。三十三年に一度の荒神神楽を通じて、やがて人々の霊は次々に霊的共同体への参入を果たしていく――。

ふたたび『源氏物語』。成立過程の研究によって『源氏物語』は、紫上系（本伝）と玉鬘系（別伝）というふたつの系統から成ることが明らかになっているという。「紫上系と呼ばれる本伝に別伝がからまりつく、二種の

長篇のたがいの緊張によって成長しもたらされた」（『幻景』としての源氏物語）『日本小説』原始）。とすればさらに私は、『靈統』という視座で『源氏物語』冥界篇を紡ぎだしてみたい気がする。

書籍リスト

- ・藤井貞和『古日本文学発生論』思潮社
- ・藤井貞和『源氏物語入門』講談社学術文庫
- ・同『日本小説』原始』大修館
- ・中上健次『枯木灘』河出文庫
- ・四方田犬彦『貴種と転生』新潮社
- ・山田風太郎『幻燈辻馬車』河出文庫
- ・連實重彦『小説から遠く離れて』日本文芸社
- ・スタニスワフ・レム『完全な真実』国書刊行会
- ・山本ひろ子『大荒神頌』岩波書店
- ・石光眞清『広野の花』以下四部作
- ・中井英夫『虚無への供物』講談社文庫
- ・花田清輝『室町小説集』講談社
- ・小栗虫太郎『黒死館殺人事件』社会思想社
- ・夢野久作『ドグラ・マグラ』角川文庫他
- ・高橋たか子『土地の力』女子パウロ会
- ・ヨーハン・B・アンドレーエ『化学の結婚』紀伊國屋書店
- ・F・イエイツ『薔薇十字の覚醒』工作舎

- ・ S・K・ド・ローラ『鍊金術図像大全』平凡社
- ・ ギンズブルク『闇の歴史』せりか書房
- ・ 村上忠男『歴史家と母たち』未来社
- ・ 鶴岡真弓『聖バトリック祭の夜』岩波書店
- ・ 亀山郁男『甦るフレイブニコフ』晶文社
- ・ E・H・カントロヴィッチ『祖国のために死ぬこと』みすず書房
- ・ 益田勝美『秘儀の島』筑摩書房
- ・ 佐々木宏幹『シャーマニズムの世界』講談社学術文庫
- ・ 山下欣一『奄美のシャーマニズム』弘文堂
- ・ 筑土鈴寛『中世・宗教藝文の研究・一、二』せりか書房
- ・ 岩田勝『神楽新考』名著出版
- ・ 岩田勝編『中国地方神楽祭文集』三弥井書店
- ・ 石塚尊俊『女人司祭』慶友社
- ・ 梅原伸太郎『他界論』春秋社
- ・ 津城寛文『鎮魂行法論』春秋社
- ・ 宮家準『修験道と日本思想』春秋社

山本ひろ子（やまもと・ひろこ）

一九四六年生まれ、早稲田大学文学部中退。現在、フェリス女学院大学、明治学院大学講師、神語り研究会代表。日本思想史。

著書

『変成譜——中世神仏習合の世界』（春秋社）、『大荒神頌』（岩波書店）。

会員社下半期トピックス

青木書店

歴史の世界を考古学が大胆にひろげる

「シリーズ 日本歴史のなかの考古学 全一三冊」

(一〇月刊行開始予定)

四六判 平均一六〇頁/予定価各二〇〇〇円

がこの秋にスタートいたします。

このシリーズの特色は、①考古学(モノの解説)の世
界から、古文書をとおして社会関係・社会構造を説明し
てきた歴史学にアプローチし、日本史像の再構築を企図
していることと、②古代から近世まで考古学の第一線の
研究者の英知を結集して、③時代別構成(共時性)に、
モノの種別変遷をとおして歴史を見通す通時的視点を重
ねる、歴史縦断的な構成にあります。

いわば「考古学が拓く歴史認識の新たなこころみ」と
いえる新企画です。

古代史像や時代区分の変更を迫るような遺蹟の発掘、
新知見の公表があいつぐ今日、そのたしか最新成果を
お届けいたします。

大月書店

今年になってから新刊の動きが少し上向いてきまし
た。全体的な上げ潮ではなくなりましたが、といったこと
ですが、中でも『近現代史の真実は何か』(藤原彰・森田俊
男編、定価一九五〇円)が好調です。本書は一月一九日、
初刷三五〇〇部でスタートし現在四刷七五〇〇部をこ
え、返品もこの数年の新刊で最も少なく堅実に伸びてい
ます。内容は藤岡信勝氏の歴史観に対する批判です。藤
岡氏は東大教育学部の先生ですが、先ごろ亡くなった司
馬遼太郎さんの説に感化され、それまでの自らの歴史観
を投げすて「明治時代は明るく、平和だった」だの「戦
後の『民主教育』は誤りだった」などと言い出し、これ
らの主張を明治図書からシリーズで刊行しはじめたた
め、歴史、教育関係の二〇名余りの先生たちが共同で反
論したもので書評にもたくさんとりあげられました。
発売以来、歴史教育コーナーの売上げ上位にランクさ
れています。常備選択の際は忘れなくマークして下さ
い。

御茶の水書房

大地に縫うアイヌ文様の魅力一冊に

『チカップ美恵子 アイヌ文様刺繍作品集』

写真撮影・上間 晃

(B4判/一二〇頁/予価一〇、〇〇〇円)

刺繍分野で、初めてのアイヌ民族作家個人作品集。構成は、百枚を超える写真と図案数十点、詩、著者インタビューなど。作品約六十点は、自然との共生を強調したもので雪原や岩の上、林の中など自然の風景の中で二年前の夏から撮影が続けられ、この五月で終了した。作品

の風景には作者の古里・釧路に近い阿寒湖や摩周湖、そこに生息する野鳥、花々を網羅している。この作品集は、同化政策で失われそうになった伝統文化を単に復活させるだけではなく、作者の感性で、その伝統を現代に生かし発展させる道筋を示している。

紀伊國屋書店

七月より刊行を開始したコレクション〈智慧の手帳〉が好調な売れ行きです。初回の事前委託注文が配本予定数を上回り、ご希望に添えなかった書店様が出してしまいご迷惑をおかけしました。増刷で対応させていただきます。

鶴見俊輔座談

全10巻／好評刊行中！

四六判／各3800円

日本人とは何だろうか

日本人の枠を越えて生きた人々を語る。司馬遼太郎他。3刷

思想とは何だろうか

戦後の思想を主導した思想家達との対話。丸山眞男他。2刷

学ぶとは何だろうか

開かれた学び合いの思想。筒井康隆、五木寛之他。2刷

近代とは何だろうか

未来を見すえたやわらかな歴史の見方。谷川雁、竹内好他。

文化とは何だろうか

日本人の日常意識をとく。手塚治虫、赤川次郎他。2刷

家族とは何だろうか

人と人との交わりの場を豊かに育むために。日野原重明他。

戦争とは何だろうか

未来にありうる廃墟を直視するための対話。家永三郎他。

*続刊予定

民主主義とは何だろうか

社会とは何だろうか

国境とは何だろうか

晶文社



東京都千代田区外神田2-1-12
電話(03)3255-4501

おります。

《智慧の手帳》は、フランスで刊行され世界各国で翻訳されているビジュアルブックのシリーズで、日本では一二冊が刊行されます。禅、自然、ユダヤ、タオ、イスラム、インディアン、ブッダ、古代ギリシャ、科学、古代エジプト、古代ローマ、イエスといった古今東西の智慧のエッセンスを、気鋭の訳者の翻訳で美しい絵や写真とともに紹介します。

紀伊國屋書店出版部としては、谷川俊太郎『子どもの肖像』、ロックウェル『ウィリーはとくべつ』に続く新しいシリーズですが、今後もあくまでも『ことば』の美しさ、深さにこだわりながら、ビジュアルブックの路線を拡げていきたいと考えています。

勁草書房

『21世紀の都市社会学・全5巻』が、この秋、完結する。

編集は、松本康、奥田道大、佐藤健二、吉見俊哉、吉原直樹の先生方によるものである。

全五巻の構成

- 第1巻 増殖するネットワーク
- 第2巻 コミュニティとエスニシティ
- 第3巻 都市の解読力
- 第4巻 都市の空間 都市の身体
- 第5巻 都市空間の構想力

(A5判/上製/平均約三五〇頁/各巻定価三七〇八円)
本シリーズの特徴は、二十一世紀の厚みある都市的世界を現場として、斬新な論点、取り口、実態解明、モデル呈示を積極的に試みたことである。世紀当初に向けての新シリーズとして、話題性のある企画とし、また、都市研究と都市社会学の交錯する中間領域の拡がりと賑らみに着目した企画として好評を博している。図書館をはじめ、研究者、デベロッパーの方々へ広くおすすめしたい。

社会思想社

ベトナム戦争とは何だったか？ 若い読者には映画「JFK」や「フォレスト・ガンプ」の時代背景としてし

か思い浮ばないかも知れない。が、「戦後五〇年」の九五
年は、ベトナムにとっては南部解放二〇年、独立五〇年
に当たっていた。「冷戦」という圧力容器が解体されて後も
持ち越される戦争、絶え間ない民族紛争が、ベトナム戦
争間い直しの気運を促したが、仏印進駐によって太平洋
戦争の引金を引いた日本人にとっても忘れてはならない
重いテーマと言えよう。

今夏刊行のガブリエル・コルコ『ベトナム戦争全史』
は「世界各国で出版された何百にも上る文献のうちでお
そらくもっとも体系的で包括的な業績」（陸井三郎）。ア
メリカ政治の専門家として知られるコルコは、ベトナム
解放の最終作戦で、人民軍と行動を共にしその「怖るべ
き劫火」を目撃している。

中原光信『ベトナムへの道』、瀬戸川宗太『JFK』
悪夢の真実』に続く大型企画。

春秋社

「知ってるつもり!」で四年前に紹介され、番組三百回
放送中もっとも視聴率が高く、反響も大きかった中村久

子さん。その自伝である『こころの手足』は累計二十五
万部を越えて今なお読み継がれ、ロングセラーとなっ
ています。

その中村久さんの生誕百年を記念して、残されてい
た生前の講演テープを『こころの手足CDブック』（予価
二二〇〇円）として今秋刊行いたします。これは昭和四
十年に「私の越えて来た道」と題して行なわれた貴重な
講演のテープをCD化したものです。

三歳の秋脱疽のために激痛に苦しみながら両手両足を
切断、以後十八歳で見世物興行の世界に入り、二児を生
み育てる中での、想像を絶する苦労や生かされているこ
とへの感謝と、母に対する恩を語った感動の講演です。
幾重にも積み重ねられた体験の重さと深さを持つ久子さ
んの生の言葉は、あらためて多くの人々の感動をよぶこ
とでしょう。『こころの手足』の本と共に力を込めて販売
を展開していきたいと考えていますので、よろしくお願
いいたします。

晶文社

今年の秋から来年にかけては、コンピュータ関係の本に力をいれていく予定だ。ラインナップは以下のとおり——粉川哲夫の評論集『もしもインターネットが世界を変えるとしたら』、室謙二のエッセイ『ネットワーク日常術』、印刷屋さんの立場からこれからの印刷やインターネットを論じた中西秀彦の『活字が消えたあと』など。マニュアルとして役立つ本、ビジネス書などはたくさんあるので、わたしたちはコンピュータに縁のない人でも興味もてる、読みやすい本を心がけている。

インターネットやパソコンは、いまややっていないと時代にのりおくれるかのような勢いだ。どうあがいてもデジタルな社会はやってくる。だとしたらどのような新しい道具と楽しくつきあえるのか？ コンピュータに社会を変える力があるとしたら、よりよい方向はどこにあるのか？ そんなことをさまざまな角度から考える本にしていきたい。また、十月には「鶴見俊輔座談集十巻」が完結する。

誠信書房

読売新聞が今年初めに実施した「学校教育」についての全国調査によると、学校教育への不満は六七%にも上り、その対象は「いじめ（対応へのまずさ）」が第一位になっています。また、いじめを生む現在の教育の問題点として、「生徒が本音で相談できる場がない」「三三%となっています。文部省はその対策として学校にスクール・カウンセラーを置くことによって解決を図ろうとしています。

このような背景の中で、今書店店頭では、カウンセリングの本の動きに顕著なものがありません。カウンセリング学会理事長・国分康孝著『カウンセリングの技法』・『カウンセリングの理論』・『エンカウンター』、養護教諭・門田美恵子との共著『保健室からの登校』、実際を分かりやすく解説した河合隼雄『カウンセリングの実際問題』、一九五六年刊行以来売れ続け、この度改訂した『カウンセリングの技術（第二版）』などが売行良好書です。詳細は営業部へお問い合わせ下さい。

創元社

小社の九六年度後半期の新企画として『人類の知恵』双書』が発売になります。本シリーズは、さまざまな形で受け継がれてきた人間の精神文化を理解するための「知」のガイドブックです。中沢新一氏、荒俣宏氏、阿部慈園氏など、各分野の権威が責任監修を担当しています。A5変形(一二八×二〇五ミリ)・各巻平均一八四頁(カラー一六〇頁)・定価一八〇〇円(税込)・装丁は谷村彰彦氏です。各巻平均二五〇点に及ぶカラー図版・写真を駆使したヴィジュアルでわかりやすい構成で、テーマ別にコンパクトにまとめてあるため、小事典としても活用でき、格好の入門書となっています。各タイトルは、第1巻「シャーマンの世界」(ピアーズ・ウィテブスキー著 中沢新一監修)・第2巻「聖なる大地」(ブライアン・リー・モリノー著 荒俣宏監修)・第3巻「インドの神々」(リチャード・ウォーターストーン著 阿部慈園監修)で、以下続刊を予定しています。

草思社

昨年一月から刊行されているポピュラーサイエンスのシリーズ「サイエンス・マスターズ 全三巻」(四六判変形上製・平均定価一八〇〇円)が、おかげさまで大変好評です。このシリーズは、最先端の科学を、ドーキンスやリーキーなど各分野の一流の科学者たちが書き下ろしたもので、これほどの執筆陣が集まったシリーズは、世界で初めての企画といえるでしょう。

必ず読み通せるコンパクトなつくりでありながら、知的な探求心に応える、入門書より一歩進んだレベルが、幅広い読者層をつかんでいます。またC・Gによる美しい装丁もシリーズとしての魅力を高めているようです。第三回配本(九月下旬)——⑤「自然のなかに隠された数学」イアン・スチュアート、⑥「元素の王国へようこそ」ピーター・アトキンス。第四回配本(九七年二月)——⑦「認知の科学」ダニエル・C・デネット、⑧「知が出現したとき」ウィリアム・カルヴィン。

筑摩書房

この十一月より小社では没後初めての「井伏鱒二全集」(全二十八巻別巻二)を刊行開始いたします。現在まで四回にわたり上梓した「井伏全集」はいずれも著者の意志により収録作品が約半分に制限されており、全作品を網羅したものは今回が初めて。人事風物への精妙な観察、楷謔と諷刺と詩情に富む作風に、底を支える鋭い社会批評と記録の精神。当全集によりこれら巨匠の業績の全貌が初めて明らかになります。お楽しみに。

また、八月に生誕百年、熱い注目を浴びている宮澤賢治の関連書については、数多くの書店様で積極展示に取り組まれる予定のほか、六月に一〇〇号目を刊行いたしましたシリーズ「ちくまブリマーブックス」は、三〇〇軒近い書店様でフェアを催されつつあり、予想以上の成果を上げた、という内容のご報告もいただき始めました。人文系基本図書も多いこのシリーズ、一〇〇号以降も続きます。今後どうぞよろしく。

東京大学出版会

「講座現代居住」全五巻

(A5判 定価各三九一四円・六月より毎月刊行)

真に人間性豊かな「居住」の回復のために、各分野の研究者の協力により、広い視野から「居住」に関する様々な問題点を明らかにし、将来へ向けての理論の構築、思想の提起を目指す注目の講座です。

〔目次〕①歴史と思想 ②家族と住居 ③居住空間の再生 ④居住と法・政治・経済 ⑤世界の居住運動

〔特色〕●思想・理論・歴史の紹介に止まらず、居住に関するパラダイムの転換を図り、現実の問題解決についての拠り所となるようにした ●人間の尊厳を守り、文化としての居住を実現する立場から、居住民主主義の理論と実践を追求 ●二十一世紀の居住問題や人間居住のあり方についての展望を試み、地球的視野および国際連帯の視野に立って、日本と世界の課題を考察する。

日本評論社

①『薬害はなぜなくなるのか』

浜六郎著 四六判 予価二〇〇〇円 一〇月上旬刊

血液製剤によるHIV感染の悲劇、同じような薬害は、明日は我身かもしれない。薬の安全な使い方に貢献してきた医師が、日本で薬害が繰り返されるカラクリを徹底的に解明。

②『脳と心の進化論』

澤口俊之著 四六判 予価一八五四円 一〇月上旬刊

脳科学などの最新の成果をふまえて、ヒトの脳と心の進化のプロセスを解明し、「ヒトとはいったい何者なのか」の謎に答える。

③『母を支える娘たち…気ばたらきの心理学』(仮)

高石浩一著 四六判 予価一七五一円 一月中旬刊

母親への過剰なまでの献身の物語を通して、日本の精神文化に特有の「気ばたらき」の病理を優しい目差しで軽妙に説き明かす。

④『アンダーコンシャス・センサーション』

芦沢俊介他著 A5判

予価二〇〇〇円 十一月下旬刊

言葉の氾濫する情報社会を超えて、五感で共鳴しあい、下意識の心地よさでコミュニケーションする素晴らしさを探る。

福村出版

昨年夏、テレビ・ドラマの影響で手話がブームになり多数の手話の本が刊行されました。小社は、以前から『手話を学ぼう 短文篇・生活篇・社会篇』『手話への招待』等を刊行し学習書として高い評価を得ております。

また、九五年には『手話で歌おう』『手話入門ストーリーひとさし指のマジック』を、本年三月には『手話で歌おうパート2』を、六月には『基礎からの手話学』を出版し多数のご注文をいただいております。

さて、九月初旬に朝倉まみ著『手話でシャンソン——声のない恋』(予価一六四八円・A5判)を刊行いたします。シャンソン歌手朝倉まみさんは、手話で歌詞を表現しながら歌い始めて一〇年になります。手話コンサート

は二〇〇回を越えています。地道な活動は、聴覚障害者の方々からはもちろんのこと健聴者の方からも多くの賛同を得ております。(朝倉さんについては「朝日新聞」四月五日付けのニュース・ラウンジで紹介されました)

本書は、「愛の讃歌」「声のない恋」「百万本のばら」等全六曲を収録し、曲にあった手話表現を写真で紹介しすぐに歌えるように工夫してあります。手話の楽しさ・歌うことの素晴らしさを感じて下さい。

平凡社

『字通』いよいよ一〇月中旬発売!

永らくお待ちしておりました、白川静著『字通』が今秋刊行のはこびとなりました。漢字の成り立ち、意味の展開、造語力を組織的かつ体系的に追究——これまでの辞書では味わえぬ漢字の奥深い魅力を知る、漢和辞典の最高峰が誕生します。

本書の数ある特色のうち主なところをご紹介しますと——

*漢字の配列は字音による五〇音順。

*各文字についてその成り立ちと意味の展開をわかりやすく説明。

*熟語は約二〇万語と同規模の漢和辞典の約二倍を収録。

*同時に親文字が下につく熟語も列記して、その文字の使われ方の多様性がわかるようにしました。

既刊の『字統』『字訓』とあわせ、白川漢字学がいよいよ集大成されます。座右の本書で漢字の通になつて下さい。

法政大学出版局

「ピエール・ベール著作集」全八巻

(野沢協/全訳・解説)、今秋十一月に完結。

一九七八年十一月の第一巻刊行からまる十八年の仕事に一応のピリオド。ピエール・ベール(フランス生まれ、一六四七—一七〇六)は、スピノザやライブニッツ、ロックらとほぼ時を同じくして、神学的形而上学の仮借ない解体作業によって全ヨーロッパを震撼させ、やがて現れる「啓蒙」の思想家たち(ヴォルテールやデイドロ

など)に巨大な武器庫をもたらした、正に近代思想の夜明けに屹立する、語られること多く知られること最も少ない哲学者のひとり。本著作集は、畢生の大作『歴史批評辞典』(訳書三一五巻)の中心的項目を含めてその主要著作を綿密かつ膨大な訳注と懇切な解説を加えて訳出し、ライプニッツが格闘した陰翳と屈折に満ちた思想の全貌を伝えるものです。なお訳者の野沢協先生は第七巻刊行後に「第二回日仏翻訳文学賞」を受賞した。

●最終回配本Ⅱ第八巻『後期論文集・Ⅱ』

みすず書房

一九九六年下半期は多彩な新企画を用意しています。各分野の単行本、シリーズとも大いにご期待ください。一部をご紹介します。

〈完結シリーズ〉

一九九六年に完結のシリーズのセット販売です。該当シリーズは以下のように。

E・M・フォスター著作集(全一三巻)
コレクション瀧口修造(全一三巻)

上田辰之助著作集(全七巻)

続・現代史資料(全一二巻)

プロンテ全集(全一二巻)

大西巨人文選(全四巻)

〈みすずライブラリー〉

各分野の名著を同一の装丁で、廉価に提供するシリーズ。新刊書、品切れ書を含めて隔月に数点ずつ刊行します。九月より開始。

〈基本図書限定復刊〉

昨年実施して好評の基本図書限定復刊を今年も実施します。小部数の製作ですが、確実に読者のいる古典の復刊です。

ミネルヴァ書房

お待たせいたしました。好評のガイドブック・シリーズ第四弾として『こんなにふえた安くはいれる有料老人ホーム』(わいふ編集部編・A5判・四八〇頁・定価二五七五円)を刊行いたしました。本書は、一九八七年刊行のベストセラー『安く入れる有料老人ホーム』の全面

改訂・増補版ともいえるもので、文字通り収録施設数等も「こんなにふえ」、質・量ともに前著の二倍近いものになっています。前著が、老人ホーム関係のガイドブックとして先駆的存在であったように、本書もまた新たな先駆となりうる内容と自負しております。

また本書をはじめ、最近マスコミ等でも注目を集めている介護保険問題を扱った話題の書『公的介護保険に異議あり』等、福祉関連の売行き良好書をセレクトした『シニアブックフェア』（四〇点四〇冊・四カ月長期委託）も好評申込み受付中（七月二〇日締切り・八月下旬出荷予定）ですので、お申込み忘れのないようお願い申し上げます。

未来社

小社はあくまで専門書出版にこだわっていると思うていますので、これといった目玉商品があるわけではありませんが、歴史関係では、ナチズムの興隆の謎を説き明かしたフリッツ・スターンの名著『夢と幻惑』がポイエーシス叢書で出るのをはじめ、哲学・歴史・民俗学・

宗教・社会学のジャンルでは宮本常一著作集や菅江真澄全集などベーシックな仕事が続続刊行されます。文学・芸術関係ではパウル・ツェランの評伝が出るほか、美術史家・森洋子さんの大作『シャボン玉の図像学』がいよいよ刊行の運びとなりそうです。美術作品におけるシャボン玉の意味するところを徹底的に解明する文化史的主題を追った本でもあります。これまでも本を出すごとに国内外のいろいろな賞を受賞されてきた方だけに、話題を呼ぶことでしょう。変わったところでは、死にさいしての患者の自己決定権を問題にしたドイツのお医者さんによる『最後まで人間らしく』が出ます。近ごろ話題になってきたインフォームド・コンセントの問題を扱った切実な本です。

雄山閣

小社はおかげさまで本年創業八〇周年を迎えることが出来ました。

これもひとえに皆様のご指導ご協力のお陰と心より感謝申し上げます。

雄山閣創業八〇周年記念出版企画〈下半年期〉

第一回配本 九月下旬予定

「全集日本の食文化 全一二巻」 芳賀登・石川寛子／

監修・A5判・平均三四〇頁・予価各四、九四四円

一二月下旬発売予定

「日本土器事典 全一卷」 大川 清・鈴木公雄・工業

善通／編・B5判・約一一〇〇頁・予価三〇、〇〇〇円

第二回配本 一二月上旬予定

「講座 日本の民俗学 全一一巻」 赤田光男・香月洋

一郎・小松和彦・野本寛一・福田アジオ／編・A5判・

平均三〇〇頁・予価各四、五〇〇円

以上を予定しておりますのでよろしくお願いいたします。

有斐閣

小社は、昨年十一月埼玉県朝霞市に「有斐閣受注センター」をオープンしました。おかげさまで大きなトラブルもなく、今年の新学期を乗り越えることができたのは、ひとえに、生協・書店様を中心にした皆様のご協

力の賜物とこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

今年の下半期の大きな企画は、一九七七年に初版を刊行して以来数十万部の売上を記録した『社会学小辞典・新版』（判型↓四六・予定価↓未定・発売予定↓九六年一月）の発刊です。一般的には、「法律書の有斐閣」というイメージで定着している中で、すぐれた人文書のロングセラーも刊行していることをこの際大きくアピールしておきたいと思います。

また、小社は、来年創業一二〇周年を迎えます。これもひとえに、読者をはじめとした皆様のおかげと深く感謝申し上げます。そこで、販売も含めイベントを検討中ですが、その節は、ぜひご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

歴史が企画をつくったり、本を売ってくれるわけではないので、これから、ますます気を引き締めて新たな、そして、確かな一歩を未来に向けてクライムアップしていきたいと考えております。

古川弘文館

月予定。

十一月刊行開始の叢書『歴史文化ライブラリー』に尽きる。

近づきつつある二十一世紀は人類史の到達点として、平和な社会を築くために、人類誕生から現在に至る「人類の遺産・教訓」としてのあらゆる分野の歴史を「歴史文化ライブラリー」として刊行することにいたしました。

歴史学を中心とした専門出版社として経験を生かし、学問成果にもとづいた本叢書を刊行し、社会的要請に応えてまいりたいと考えております。本叢書の一冊一冊が、それぞれの読者を知的冒険の旅へと誘い、よりよい人類の未来を構築する糧となれば幸いです。

第一回配本＝五冊、以後隔月に四冊ずつ刊行。四六判・カバー装・平均二〇〇頁。予価＝各一七五一円。

なお、五月刊の国史大辞典第十五巻上（補遺、史料・地名索引）は大変好評を博しております。十一月刊行予定の同巻中（人名索引）をご期待ください。（下は九年三

九六年度委員会活動について

五月三一日年次総会を開催し、九五年度の活動報告を行い、次いで九六年度の新しい委員会構成を決定いたしました。

代表幹事には菊池明郎氏（筑摩書房）を、書記に武一雄氏（雄山閣出版）を、会計に後藤光行氏（日本評論社）を引き続き選任いたしました。

次に人文会を構成する四つの委員会の委員長に今年度の活動予定・抱負等を語ってもらいます。

販売企画委員会

委員長 清水 博（社会思想社）

第二十八回年次総会において、昨年に引き続き販売企画委員長に選任されました。

当委員会は、実際の販売に直接携わっていただく書店・取次店の皆様と共に活動を行なっていく委員会です。『すぐれた人文書の普及・販売を推進する』ため、ブックフェアの展開・セット企画等、人文図書の売上げ増大をはかり、また読者への良書の普及に努めてまいりたいと思います。

主な活動としては昨年同様、特約店・準特約店・人文書のセット店・オーダーベスト店の訪問（青森・岡山・広島・山陰・四国）を実施し、書店の皆様には忌憚のないご意見ご提案をいただきました。今後の「人文書セットやオーダーベスト」をより効率の良いセットにしたいと頑張っていく所存です。

最後に今年度の委員会のメンバーを紹介します。販売企画をお考えの際は、是非各メンバーにお声をかけて下

さい。

副委員長 吉田信夫（東京大学出版会）
委員 氏家富男（勁草書房）

杉田啓三（ミネルヴァ書房）
田村謙三（有斐閣）

調査研修委員会

委員長 平石 修（御茶の水書房）

当委員会の任務は、人文書の販売を促進していただく書店「特約店」様の調査・選定を行う事と、販売・流通にかかわる「書店」や「取次店」の方々との情報交換や販売方法の研修を行う事が大きな柱となっています。特約店制度は一九七四年に発足し、二年に一回改定作業を進めてまいりました。しかしながら二十二年を経過した今日、部分的な選定基準の変更だけでは「人文書」の棚の確保と販売の増進は見込めない状況になってきているかと思われまします。したがって本年の活動の一番目は、特約店制度の見直しを行いたい。「選定基準」を含め、会にとっての「特約店」としてどのようなかたちが望ましい

のか全体で議論をしてみたいです。二番目の活動は書店研修です。最近相次いで超大型店と呼べる書店が開店ないしは開店準備に入っています。当然会員社へも常備や長期での出荷依頼が届いているかと思いますが、出荷Ⅱ売上増となっているのかどうか、検証が必要です。その他の課題としては、再販制度の動向、消費税率の値上げにともなう価格表示の問題など大変やりがいのある委員会です。この委員会に結集されたメンバーは次の各氏です。

副委員長 原田敦雄（大月書店）

委員 重光義彦（創元社）

丸山正美（平凡社）

福田晴行（みすず書房）

図書館委員会

委員長 市川昭夫（法政大学出版局）

一九九一年に図書館委員会が設置されてから今年で五年となります。

この間さまざまな立場の図書館関係者との懇談、また

図書館の見学をおして図書館について多くを学んできました。また専門書出版社の立場から選書や蔵書について充実という観点から提案もさせていただきました。特に蔵書調査は図書館からは、現状を把握でき収書方針の参考になると支持を得て、図書の充実に寄与することもできました。

人文会ではこのような活動をおして一層図書館との信頼関係を確立してゆきたいと考えております。バブル経済後は図書館の環境は決して恵まれているとはいえませんが、一方ではさまざまな期待が図書館によせられているのも事実です。読者の期待に応えられる図書館づくりに微力ながらも協力できればと思っております。図書館関係者皆様には一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

委員会のメンバーは次のとおりです。

副委員長 島田孝久（晶文社）

委員 安藤 正（紀伊國屋書店）

濱地正憲（誠信書房）

阿部 昇（吉川弘文館）

（おことわり 歴史書懇話会との共同発行「BOOK・LIST」は今年

から発行しておりません。）

弘報委員会

委員長 土屋知可夫（福村出版）

引き続き新年度の当委員会の委員長を務めることになりました。一年間宜しくお願い申し上げます。

本委員会は、既にご承知のことと思いますが、人文書の販売促進のためにさまざまな形で提案を行うとともに当会の活動報告及び会員社の刊行物（新刊・既刊等）の宣伝を担当しております。

現在、「人文会ニュース」（年三回発行）と「新刊月報」（毎月発行）の二種類の媒体を刊行しております。多数のPR誌・パンフレット等の中で、必ず見ていただける工夫をして行きたいと考えております。

委員会の新メンバーをご紹介します。

副委員長 吉田哲夫（未来社）

委員 古川 清（青木書店）

鈴木龍太郎（春秋社）

浴野英生（草思社）

人文会会員名簿

(〒111 台東区蔵前 2-5-3 筑摩書房内)

1996. 8. 現在

	社 名	担当者	〒	所 在 地	電 話	FAX
幹 事	青 木 書 店	古川 清	101	千代田区神田神保町 1-60	3219-2341	3219-2585
	大 月 書 店	原田 敦雄	113	文京区本郷 2-11-9	3813-4651	3813-4656
	御茶の水書房	平石 修	113	文京区本郷 5-30-20	5684-0751	5684-0753
	紀伊國屋書店	安藤 正	156	世田谷区桜丘 5-38-1	3439-0128	3439-3955
	勁 草 書 房	氏家 富男	112	文京区後楽 2-23-15	3814-6861	3814-6854
幹 事	社会思想社	清水 博	113	文京区本郷 3-25-13		
				中銀本郷 3 丁目ビル	3813-8105	3813-9061
	春 秋 社	鈴木龍太郎	101	千代田区外神田 2-18-6	3255-9611	3253-1384
	晶 文 社	島田 孝久	101	千代田区外神田 2-1-12	3255-4501	3255-4506
	誠 信 書 房	濱地 正憲	112	文京区大塚 3-20-6	3946-5666	3945-8880
	創 元 社	重光 義彦	162	新宿区山吹町 334-11	3269-1051	3269-1092
	草 思 社	浴野 英生	150	渋谷区神宮前 4-26-26	3470-6565	3470-2640
代表幹事	筑 摩 書 房	菊池 明郎	111	台東区蔵前 2-5-3	5687-2680	5687-2685
	東京大学出版会	吉田 信夫	113	文京区本郷 7-3-1		
				東京大学構内	3811-8814	3812-6958
幹 事	日 本 評 論 社	後藤 光行	170	豊島区南大塚 3-12-4	3987-8621	3987-8590
幹 事	福 村 出 版	土屋知可夫	112	文京区小石川 1-3-17	3813-3981	3818-2786
	平 凡 社	丸山 正美	152	目黒区碑文谷 5-16-19	5721-1234	5721-1239
幹 事	法政大学出版局	市川 昭夫	162	新宿区市谷田町 2-14-1	5228-6271	5228-6010
	み す ず 書 房	福田 晴行	113	文京区本郷 5-32-21	3814-0131	3818-6435
	ミネルヴァ書房	杉田 啓三	607	京都市山科区日ノ岡堤谷町 1		
				(075) 581-5191 (075) 581-0589		
			162	新宿区市ヶ谷山伏町 5	3267-3849	3235-9539
	未 來 社	吉田 哲夫	112	文京区小石川 3-7-2	3814-5521	3814-8600
幹 事	雄山閣出版	武 一雄	102	千代田区富士見 2-6-9	3262-3231	3262-6938
	有 斐 閣	田村 謙二	101	千代田区神田神保町 2-17	3265-6811	3262-8035
	吉川弘文館	阿部 昇	113	文京区本郷 7-2-8	3813-9151	3812-3544

販売企画委員会 ◎清水 ○吉田(信) 氏家 杉田 田村

調査・研修委員会 ◎平石 ○原田 重光 丸山 福田

図書館委員会 ◎市川 ○島田 安藤 濱地 阿部

弘報委員会 ◎土屋 ○吉田(哲) 古川 鈴木 浴野



有斐閣 (定価は税込み)
東京・神田・神保町2/Tel:03-3265-6011
(ご注文はTel:03-3817-0711へ)

ソシオロジ―事始め新版
中野秀一郎編 短大大学教養の学生向けに徹した面白くて読みやすいビジュアルなテキスト。「有斐閣ラック」定価一八五四円

社会学のエッセンス 世の中のしくみを見ぬく
友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴編著 一番分りやすい理論社会学入門。有斐閣アルマ・Interact 定価一七五二円

権力から現代人の社会学入門
藤田弘夫・西原和久編「権力」をキーワードにして現代人の生活に潜む問題を抉り出す。有斐閣アルマ・Interact 定価一八五四円

未来社

夢と幻惑

『ドイツ史とナチズムのドラマ』ワイマールからナチズムへのドイツを、アインシュタイン等の個人史を跡づけ活写した、亡命ユダヤ人史家のドイツ現代史論。 ●3914円

新たな世紀に託された人類の思想的課題を語りあう。対話者Ⅱ
中沢新一、中村雄二郎 小松左京 立花隆ほか ●2266円
好評既刊Ⅱ 超時と没我、跳躍と漫瀾 ●ともに2575円
フリッツ・スターン著／檜山雅人訳

増谷雄高対話集
瞬発と残響

東京都文京区小石川3-7-2
価格(税込) 電話(03)3814-5521 〒112

永原慶二・中村政則編 四六判／2266円

歴史家が語る

戦後史と私

歴史家は、激動の戦後をいかに生き、さまざまな体験を通して同時代をどのように認識し、自らの学問に反映してきたか、それぞれの学問の原点を語る。第一線の歴史家64名が、率直なエッセイで綴る戦後史学への証言集。

吉川弘文館

東京都文京区本郷7-2・電03-3813-9151

考古学から見る邪馬台国 ●2369円
菊池徹夫編

漆ももやま話 ●2575円
異色の日本文化論
山岸寿治著

海の文化誌 ●2060円
「海の日」制定記念
田村 勇著

凶録性の日本史 ●2266円
風俗産業の原点を探る
笹間良彦著

アジア稲作文化と日本 ●2266円
諏訪春雄・川村 湊編

雄山閣

* 価格は税込

東京都千代田区富士見2/ ☎03(3262)3231

破 ニッポン ODA 壊 40 年のツメ跡

諏訪 勝●著 「援助」はいったい誰のためなのか? 強制移住、公害輸出、生活破壊、そして原発開発。ニッポン ODA はいま。フィリピン、インドネシア、中国…アジアの「開発現場」を歩き、人びとの声に耳をそばだてた。
¥2472

夢に駆けた

治安維持法下の青春
上羽 修●文・写真 特高警察が闊歩した時代、弾圧に屈することなく、自らの夢に青春を賭け、勇敢な抵抗を試みた人々のいまを活写したフォトドキュメント。
¥2575

青木書店

東京都千代田区神田神保町 1-60 税込
TEL [03] 3219-2341 FAX [03] 3219-2535

●朝日社会福祉賞を受賞した一女性移民の伝記、 ドナル・ガリーダ・渡辺

前山 隆編著 移民・老人福祉の五十二年
A5変型判、三六〇頁、二八八四円

日米開戦のためブラジルの日本移民リターン達が多数収監され、また数千名の日本人が強制立ち退きを課されて半難民化する。若い主婦の渡辺マルガリーダは突然困窮する移民の救済活動に身を投じ、移民福祉・老人福祉の実践にその生涯を激しく燃焼し尽くしていった。
●日系カナダ人史の「原典」
●日系カナダ人社会史

石をもて追われるごとく

新保 満著
本書は二〇年前にカナダで刊行され、今日まで日系カナダ人史の「原典」と評価されてきた。精選・日系史料の蒐集と本書成立の背景を加え、日本で初めて復刊する。
A5変型判、三六〇頁、二八八四円

御茶の水書房

東京・文京区本郷5-30-20 ☎03-5684-0751

●従来の日中戦争のイメージを一変させる衝撃の書 日本軍の化学戦

中国戦場における毒ガス作戦
紀学仁主編／村田忠禧訳／藤原彰・栗屋憲太郎解説
日中全面戦争以来、中国の戦場における前線と後方両面での日本軍の毒ガス作戦・演習の全体像を初めて描く本格的な研究。これまでに日中両国で発掘された資料をもとに毒ガス戦による被害や捕虜をつかての生体実験のようすが、なまなましく描かれる。従来の日中戦争のイメージを一変させる衝撃の書。46判・定価3800円

大月書店 東京都文京区本郷2-11-9
電話03(3813)4651(代表)

◆ビジュアルと言葉が隣りなす 知慧のタペストリー

コレクション〈知慧の手帖〉

自然の言葉

ランボーやシュタイナーらの自然をめぐる名言を、鮮やかな写真とともにお届けします。▼1200円

禅の言葉

公案や禅語を弟子丸泰仙師の書や水墨画とともに綴り、禅の精神のみなもとに誘います。▼1200円

中沢新一訳

紀伊國屋書店

出版部：東京都世田谷区桜丘5-38-1
☎03(3439)0128(営業) 表示価格は税込み

ガイア
地球のささやき
龍村 仁

映画「地球交響曲Ⅰ、Ⅱ」監督の
鮮烈エッセイ集!

地球を旅しながら象や鯨、樹や石と全
身で対話し、ひとつながりの生命のさ
さやきに耳をすます魂の書。 2000円

ユングと共時性

1.プロゴフ著 河合隼雄・河合幹雄訳
非因果的でありながら意味のある偶然
の一致として理解される“共時性”につ
いて、この理論の生いたちや思想史的
な先駆者の思考体系を解説。 2300円

創元社 大阪市中央区淡路町4・3・6
東京都新宿区山吹町334・11

草思社

官僚の大罪
ビル・エモット／鈴木主税訳 ●1500円
過去十五年間、官僚は日本に大損害を与え続けた。
『日はまた沈む』の著者が、政府の大失態を告発する!

庭仕事の愉しみ
ヘルマン・ヘッセ／岡田朝雄訳 ●1900円
庭仕事は瞑想である! 文豪ヘッセが庭仕事を通して
考え、学んだ自然と人生の秘密。珠玉のエッセイと詩。

東京都渋谷区神宮前4-26-26 ☎03-3470-6565 *税込価

山田道隆

取材報告 **タイのかたち**

— 外信記者が見た融和社会 —
タイのなまなましい実像に迫る。
四六判・2781円＋310

【映画の21世紀】 《全4巻》

カイエ・デュ・シネマ・
ジャポン編集委員会 編

刊行開始

①ヌーヴェルヴァーグの現在
二世紀目の映画のために 1854円＋310

②ミュージック＋シネマ 7月末

▶以下続刊予定……予価1854～2266円
第3巻・9月刊行 第4巻・12月刊行

勁草書房

東京都文京区後楽2-23-15 * 価格税込
電話3814-6861 振替00150-2-175253

保健室からの登校

不登校児への支援モデル

國分康孝・門田美恵子著

不登校で苦しんでいた子が保健室登校を
始める。そして教室へと戻っていく。養
護教諭による援助の事例を紹介。1545円

子どもの描画

なぐり描きから芸術まで

H. ガードナー著／星 三和子訳

三歳児のなぐり描きからピカソの絵に至
るまで、芸術的才能の発達の謎を探り、芸
術作品と子どもの絵の違いを示す。4326円

誠信書房

東京都文京区大塚3-20-6
TEL. 03-3946-5666

新しい〈学問〉が新しい世紀を開く
21世紀 学問のすすめ
 刊行開始 * 各 1545 円

政治学のすすめ

猪口邦子編 世界平和は可能か——(民主主義)をキーワードに、国際的視点から展開する。

経済学のすすめ

西村和雄編 一冊でつかめる、市場メカニズム研究の学としての(経済学)の新しい全体像。

社会学のすすめ

大澤真幸編 あらゆる学問・事象の領域を横断しつつ目指す、ダイナミックな(知)の世界。

筑摩書房

電話048-651-0053(サービスセンター) * 定価税込

●ちゃんと育てればストレスに強くなる 心が痛い子どもたち

松岡素子・松岡洋一／著

1442円

「勉強しなさい」「がんばりなさい」など親からのなげない一言が、子どもの心にグサリと突き刺さりまします。「心の痛み」「ストレス」をかけない子育てとは。

●ここにアメリカ医学教育の真髄を見る 岩崎榮

アメリカの医学教育

アイビーリーグ医学部日記

1751円

赤津晴子／著

具体性と自主性にあふれるアメリカの医学教育をいきいきと描き出す。

日本評論社

豊島区南大塚3-12-4 ☎03-3987-8621

—最新刊—

女性が学ぶ 社会心理学

宗方比佐子・佐野幸子・金井篤子編著
 すべての女性に贈る——はじめての
 女性のための社会心理学入門書。

A 5判・定価2369円

基礎からの 手話学

神田和幸・藤野信行編著
 手話文法をわかりやすく説明したう
 えで、ろう者やろう教育、手話通訳、
 ろう福祉にも視野を広げ、基礎的な
 知識を紹介する。

A 5判・定価2060円

東京・文京
 小石川 1-3

福村出版

定価は税込

電話 (03)
 3813-3981

歴史学研究会編 講座世界史

●四六判／各巻 2472 (税込)

- 1 世界史とは何か——多面的世界の接点の転機
- 2 近代世界への道——変容と摩擦
- 3 民族と国家——自覚と抵抗
- 4 資本主義は人をどう変えてきたか
- 5 強者の論理——帝国主義の時代
- 6 必死の代案——期待と危機の20年
- 7 「近代」を人はどう考えてきたか
- 8 戦争と民衆——第二次世界大戦
- 9 解放の夢——大戦後の世界
- 10 第三世界の挑戦——独立後の苦悩
- 11 岐路に立つ現代世界——混沌を恐れるな
- 12 わたくし達の時代

東京大学出版会

東京都文京区本郷 7 Tel.03-3811-8814